

## 詩編 第75編 1節

「私たちは、あなたに感謝します。神よ、私たちは感謝します。御名は、近くにあり、人々は、あなたの奇しいわざを語り告げます。」

神よ、と詠い御前に在る時生まれるのが感謝である。神よと詠える自分の姿から生まれる感謝がある。詠う自分を造ってくださり、詠う自分の声を聞いてくださり、詠う自分のところを受け止めてくださる神がおられる。その存在のすべてを現す御名が近くにある。近くにおられる愛の眼差しをあびることから生まれる感謝の歌である。この感謝の輪が人々を巻き込んで御前に湧き上がる。詠う者たちが神にどのような扱いを受けているのか想起する。

存在から生まれる感謝が先に起こる。そして、私たちを含めてである、人々が神の奇跡のわざを思い起している。御前に立つ者たちが、そのお方をあなたと詠い、自分たちに与えられている豊かなかわりのなかで御業を体験する。この出来事を語りたくなる、詠いたくなる。世界に向かって詠う。

あなたと呼ぶとき感謝が湧き上がる。あなたと呼ぶとき詠が生まれる。その感謝と詠う声が時と場を超えて響き続ける。呼ぶ者の存在が詠を奏でる楽器とされる。本来あるべき存在と振る舞いを神の御前で目覚める。あなたと私たちの出会いの奇跡から。

2024年8月2日